

Daily Report (号外)

～FOMCの結果について～

概要

米連邦準備制度理事会(FRB)は、1月26-27日の米連邦公開市場委員会(FOMC)において、フェデラルファンド金利(FF金利)の誘導目標を0～0.25%に据え置き、金利政策・資産買い入れ政策に関するフォワードガイダンスを維持しました。

米国では、昨年12月に新型コロナウイルス感染が急増し、多くの州で再び飲食店の営業停止などの措置が講じられており、同月の雇用統計では就業者数が8カ月ぶりに減少に転じています。声明文ではこうした状況を認め、「ここ数カ月で経済活動と雇用の回復ペースは鈍化し、弱さはパンデミックに最も大きな打撃を受けているセクターに集中している」と指摘しました。ただ、このような足元の経済状況を反映した僅かな表現の修正を除き、声明文における変更箇所は殆どありませんでした。

FOMC終了後のパウエル議長の会見では、経済の持続的な改善が明確になるまで、FRBは金融政策を変更しないと強調しました。また、完全雇用と物価安定目標に向けて十分な進展が見られるには時間がかかるだろうと述べました。

市場の反応

米国株式市場は、昨年10月以来の大幅安となり、S&P500は前日比▲2.57%の3750.77ポイントで終わりました。欧州におけるワクチン供給の遅延懸念や航空機大手ボーイングなどの決算発表が嫌気され、市場にリスク回避ムードが広がりました。また、個人投資家の投機的な動きへの警戒感も市場心理を冷やし、株売りを誘ったとの指摘もあります。投資家心理を映すVIX指数は前日比5割近く上昇し、37.2で終わったほか、決算期待から買われていた主力ハイテク株にも売りが波及しました。

米国債券市場では、リスク回避ムードが広がる中、10年国債金利は低位で推移し一時1.001%と、1月6日以来の低水準を付けました。FOMC声明の発表直後に国債利回りはやや上昇しましたが、その後株価が更に下落すると再び利回りは低下し、10年国債利回りは1.02%で終わりました。

外国為替市場は、欧米株式が下落する中でドル全面高となり、円相場は1ドル＝104円台前半で終わっています。ただ、FOMCの内容は大方予想通りだった為、直接的な為替への影響は限定的でした。

S&P500とVIX指数の推移



米国10年国債利回りの推移



評価及び今後の見通し

今回のFOMCは、声明で経済の回復ペースの鈍化に言及したことで、FRBによる緩和的な金融スタンスの維持に対する重みが一段と増しました。ただし、金融緩和が現状維持となる一方、新型コロナウイルスの感染再拡大や軟調な決算結果を踏まえ、主要株価は下落し、VIXが上昇したものと見えています。

年明け以降、アトランタ地区連銀のボスティック総裁が年内の資産買い入れ縮小の可能性に言及したことに端を発し、一部の地区連銀総裁からも年内縮小開始の可能性が指摘されたことや、財政出動による景気回復期待から市場には早期の緩和縮小論もありましたが、パウエル議長は「時期尚早だ」と否定し、市場の観測を強く打ち消しました。緩和の「出口」で市場が混乱すれば景気回復そのものが遅れかねない為、緩和縮小に向けた行動が遅過ぎるリスクよりも性急過ぎるリスクの方がはるかに大きいことを強調したかったものと思われそうです。

また、今後は追加の財政出動により国債が増発され、需給面からは長期金利に上昇圧力が加わると考えられます。債務残高が急速に膨らむ中での金利上昇は都合が悪く、FRBが市場から国債をしっかりと買い入れ、金利上昇を抑制する姿勢を改めて示す必要があったものと思われそうです。

ただ、新型コロナウイルスの感染拡大の収束が期待される年後半以降は経済活動の再開が一段と進むこととなり、引き締め方向の発言が出てきやすいとみられます。景気が回復しても流動性供給のスローダウンを受け、株価が調整してしまう恐れもあることから、資産買い入れ縮小開始の適切なタイミングを見計らうことが今後重要になると考えています。

(ご参考)今後の主要イベント

	日本	米国	欧州	その他
2月		2月中: 一般教書演説		11-17日: 中国 春節休暇
3月	18-19日: 金融政策決定会合	16-17日: FOMC	11日: ECB理事会	上旬: 中国 全人代

出所: Bloomberg